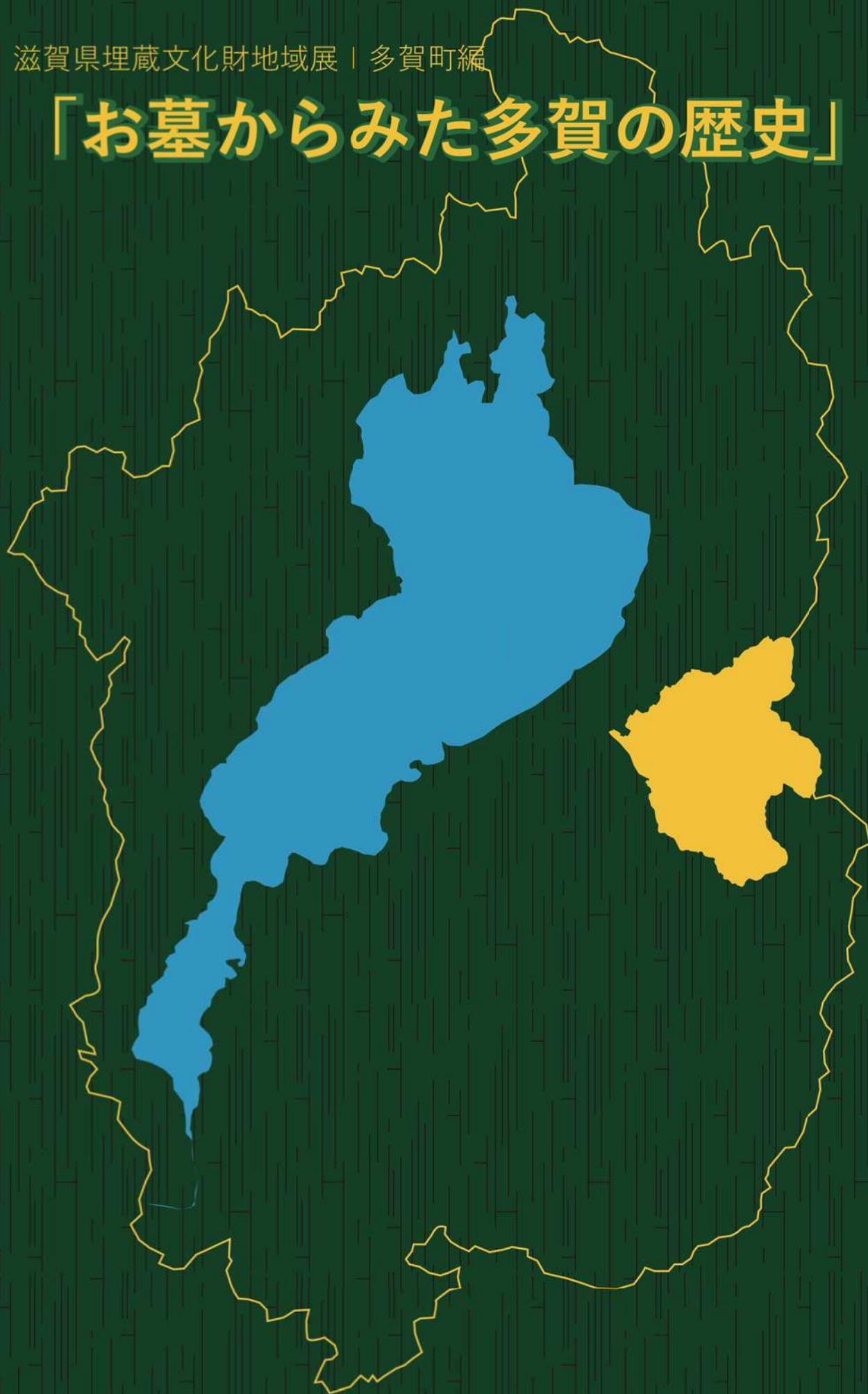


滋賀県埋蔵文化財地域展 | 多賀町編

「お墓からみた多賀の歴史」



主催：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

後援：滋賀県教育委員会・多賀町教育委員会

もくじ

●多賀町の歴史

●お墓からみた多賀の歴史

- ①土田遺跡 2
- ②大岡高塚古墳 3～4
- ③榑崎古墳群 5～6
- ④大谷遺跡 7～8
- ⑤榑崎古墳群 8～9
- ⑥木曾遺跡 9
- ⑦敏満寺遺跡石仏谷墓跡 10～11

●多賀町のおすすめスポット

【出典・参考文献】

◆犬上郡多賀町

多賀町は滋賀県の東の端に位置する人口が約7500人規模の町です。町の東側には鈴鹿山脈に連なる山がそびえ、町域の85%を森林が占めています。また、町の西部を名神高速道が縦断しており、多賀サービスエリアがあります。平日で約14,000人、休日ともなると約38,000人が利用しており、多賀町になじみのない人も一度は立ち寄ったことがあると思います。町内における最初の遺跡調査も、この名神高速道路工事がきっかけでした。

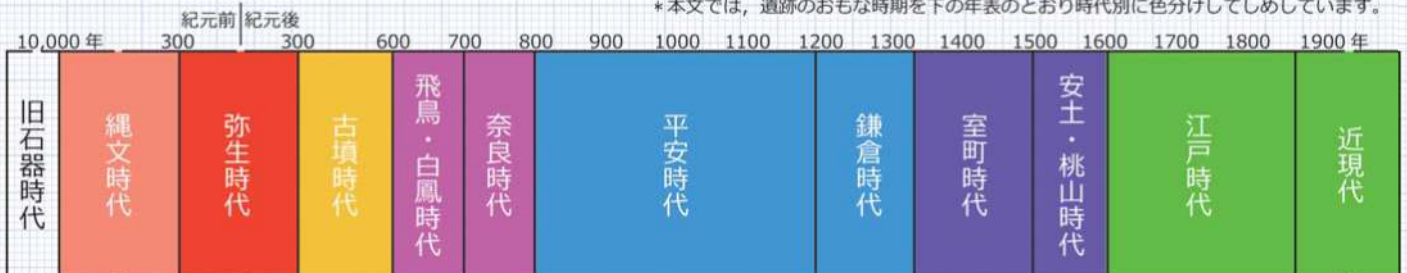
多賀町へは、自家用車であれば名神高速道路湖東三山SIC、彦根ICでおりて15分ほど、公共交通機関は彦根から近江鉄道で高宮経由で多賀大社前駅、路線バスが彦根駅・南彦根駅・河瀬駅から町の中心部にでています。

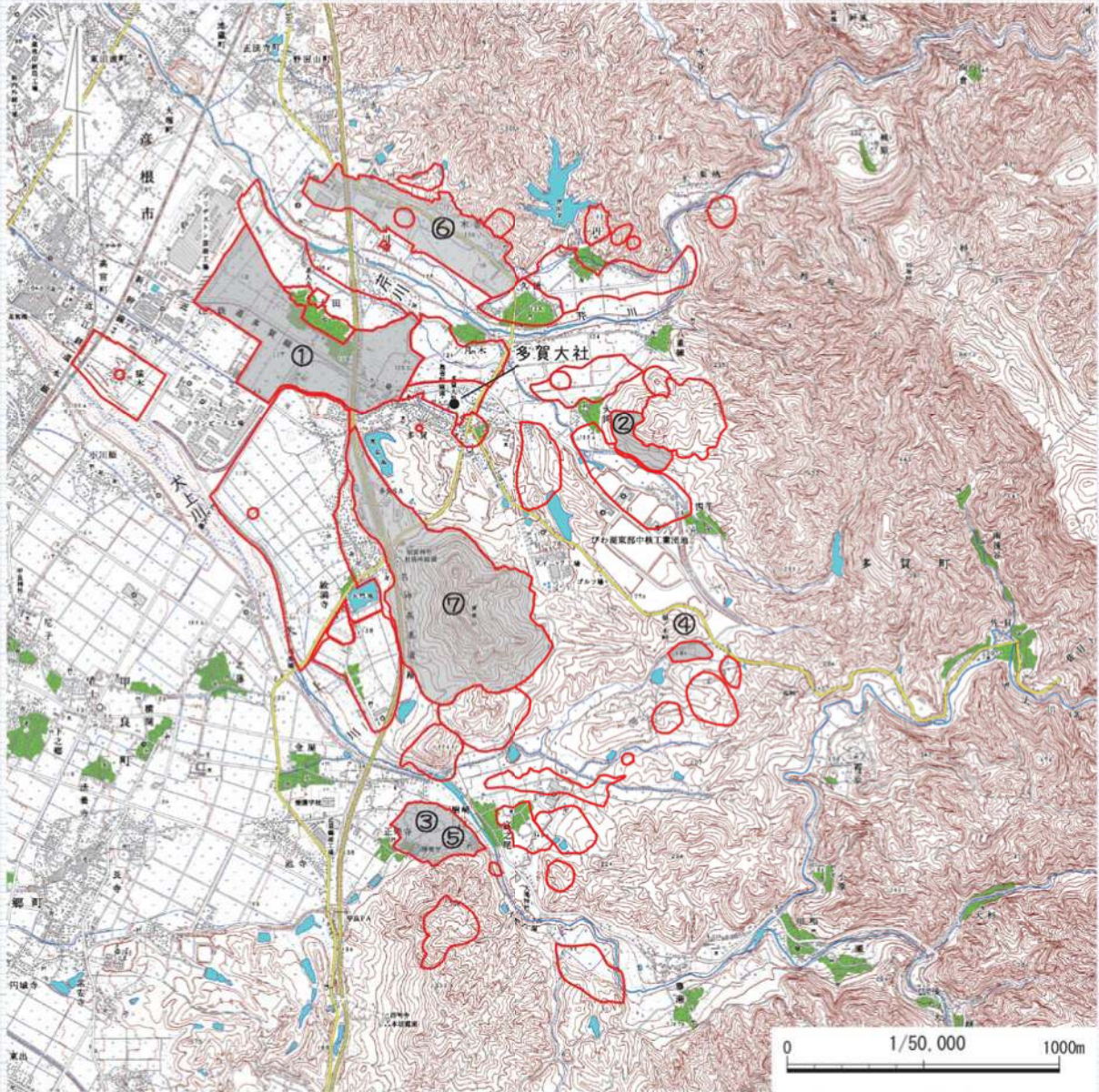
多賀町で最もなじみがあり、集客力があるのが、多賀大社です。最近では県内に新しい観光スポットができて首位の座を譲りましたが、現在においても160万人以上が参拝に訪れる老舗の観光スポットです。その老舗具合は、江戸時代「多賀参詣曼荼羅」という多賀大社を中心とした観光ガイドブックがあったことからもうかがわれます。



時代のめやす

*本文では、遺跡のおもな時期を下の年表のとおり時代別に色分けしてしめています。





◆多賀町の遺跡（グレーが本書で取り上げた遺跡、赤い線で囲われている部分が遺跡です）

◆多賀の遺跡からみた歴史

滋賀県における初期の発掘調査の事例は、昭和初期に大津宮趾の究明を目的としておこなった崇福寺跡（大津市）の調査があげられます。以降、紫香楽宮趾（甲賀市）、供養塚古墳・瓢箪山古墳（近江八幡市）などの発掘調査がおこなわれました。一方で多賀町内における初期の調査事例は、昭和34年の名神高速道路建設に伴い実施された**敏満寺遺跡（⑦）**の調査になります。その調査では、中世寺院敏満寺に関連する礎石建物、門がみついています。門跡は、現在も名神高速道路の高架の下に残されており、12個の礎石を目にすることができます。

町内では、多くの遺跡が、扇状地を中心に分布しています。縄文時代の遺跡は芹川、犬上川の両河川の流域で見つかり、久徳遺跡、**土田遺跡（①）**、大岡遺跡などがあげられます。弥生時代の遺跡はあまり顕著ではありません。古墳時代になると、集落としては小型の鏡がみつかった木曾遺跡をはじめとして、土田遺跡、大岡遺跡があり、お墓である古墳群は、大岡石塚古墳群、**大岡高塚古墳群（②）**、**檜崎古墳群（③⑤）**があります。奈良・平安時代では、751年の年号が残る絵図に描かれている東大寺領水沼荘が有名です。水沼荘は多賀サービスエリアの西側に広がる地域に相当し、現在も残る大門池が描かれています。遺跡としては、大壁造建物がみついている**木曾遺跡（⑥）**や久徳遺跡、墓跡として**大谷遺跡（④）**や緑釉陶器が出土している梨の木東遺跡などがあります。中世になると、多賀サービスエリアある丘陵上に寺院跡である**敏満寺遺跡（⑦）**や久徳氏の居城である久徳城などがあります。

土器を使った再葬墓

①土田（つちだ）遺跡

犬上郡多賀町大字多賀・土田地先

◆調査主体・機関：多賀町町教育委員会

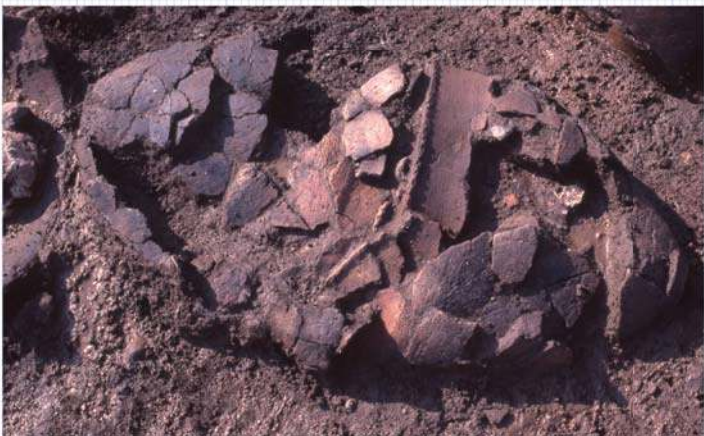
縄文



◆1. 調査区の全景 白線で囲われている部分が土器棺



◆2. 見つかった土器棺（11号土器棺）



◆3. 見つかった土器棺（6号土器棺）

1. 調査の契機—調査したわけ

民間の工場建設に伴う発掘調査です。

2. 全体の概要—見つかったモノ

縄文時代晩期の土器棺墓 20 基、木棺墓 1 基、土壌墓 1 基、そのほかに土坑やピットが見つかっています。調査区全体から見つかることより、当該時期の墓地であったことが分かりました。

3. どんなお墓？

土器棺墓は、おもに土器（深鉢）1～2 個体を、横向きや斜めに設置して棺としていました。棺として使っていた土器の中で見つかった人骨は焼かれており、二次的に埋葬した再葬墓と考えられます。穴を掘って埋葬施設とした土壌墓でみつかった人骨も、土器棺墓と同様に焼かれていました。

このように土田遺跡の墓地は、限られた調査のため広がりはわかりませんが、数種類のお墓が作られていたことは確かです。

巨石で作られた横穴式石室墳

②大岡高塚（おおおかたかつか）古墳 犬上郡多賀町大字大岡地先

古墳

◆調査主体・機関：多賀町教育委員会



◆4. 玄室から入り口方向をみるとこのような感じですよ



◆5. 羨道から石室の内部をのぞくとこのような感じ

大岡高塚古墳は、13基からなる大岡古墳群の1基で、古墳時代の後期に造られました。玄室の奥壁や天井石に非常に大きな石材を使っています。石室に使われていた石材は、大岡山の湖東流紋岩である分かっています。

1. 調査の契機—調査したわけ

古墳を活用するために、基礎的なデータを取得するために確認調査を実施しました。

2. 全体の概要—わかったこと

大岡高塚古墳は直径22～25mの円墳で横穴式石室を持つ古墳です。石室の全長は11.8mで、玄室（遺体を置くところ）の長さが5.2m、幅が1.8～2m、羨道（玄室に入るための通路）の長さが6.6m、幅が1.3mを測ります。

3. どんなお墓？



◆6. 主な出土品



◆7. 羨道部の遺物出土状況
馬具はサビているため、赤茶色をしています。

4. 調査で見つかったもの

調査の結果、羨道部分から多くの副葬品が見つかりました。遺体を埋葬する中心施設である玄室は、攪乱（盗掘など）が激しく、埋葬した当時の状況はわかりませんでした。そのことから、羨道で見つかっている副葬品は、2次的に移動していると考えられます。

主に羨道から出土した副葬品は、須恵器の蓋杯や壺、土師器小型壺、脚付鉢、馬具、装飾品（耳環・管玉等）があります。出土している土器等から少なくとも2時期に渡って埋葬が行われたことがわかりました。それは、出土している馬具も3セットみつかっていることと整合します。

古墳時代の大規模墓地

古墳

③ 檜崎（ならさき）古墳群 犬上郡多賀町大字檜崎地先

◆ 調査主体・機関：多賀町教育委員会



◆8. 檜崎古墳群の遠景 手前に犬上川がみえています



◆9. 檜崎 12 号墳石室 遺体を置く床面には石が敷かれています



◆10. 檜崎 1 号墳 檜崎古墳群中、唯一公園の中に残されている古墳です。

1. 調査の契機—調査したわけ

古墳群が分布している地域が、田んぼの区画整理（ほ場整備）の対象となり、その事前調査として発掘調査が実施されました。

2. 全体の概要—わかったこと

調査では 61 基の古墳が見つかりました。全体に残りは悪く、石室の下段部分の石材だけが残っている古墳が多いです。もともとは、檜崎 1 号墳のように土盛り（墳丘）あ

たのですが、後世の開墾などにより、削られてしまったと考えられます。そのように考えると、檜崎地区一帯には土饅頭がたくさんあった光景が、昔は広がっていたと考えられます。



◆11. 檜崎古墳群出土遺物



◆12. 古墳群出土装飾品



◆14. 鞘尻金具
(29号墳出土)

3. 調査でみつかったもの

石室の中からは、副葬品としての遺物がたくさん見つかっています。

その中でも29号墳で発見された鞘尻金具(刀のケースの先端部分)は銀象嵌がされた非常に秀逸な一品です。



◆13. 古墳群出土武器類

4. どんなお墓？

古墳時代後期に造られたお墓ですが、ほとんど盛土は残っていませんでした。現在、残っている1号墳は、町内では大岡高塚古墳と並んで地域最大の石室をもち、この古墳が古墳群がつくられる契機となったと考えられます。また、古墳群の規模が地域最大であることが調査の結果、判明しました。

古代の墓地の新たな発見！

④大谷（おおたに）遺跡 犬上郡多賀町大字富之尾字大谷地先

平安

◆調査主体・機関：多賀町教育委員会



◆15. 調査地遠景



◆16.1号墓

1. 調査の契機—調査したわけ

道路工事の最中に見つかったため、急きよ調査することになりました。

2. 全体の概要—わかったこと

墓が13基見つかっています。埋め土には木炭が確認されていることから火葬墓であると考えられます。

3. どんなお墓？

平安時代前期（10世紀頃）に造られた墓地です。注目されるのは、墓の中で見つかった鉄板で、墓誌や買地券と考えられます。現在は確認することができませんが文字が書かれています、埋葬された人の情報が残されていた可能性があります。また、鉄釘も見つかったことから、木櫃に遺体入れられていたと考えられます。



◆17. 出土鉄板



◆18. 出土鉄釘

古墳群の中に 古代の墓地！

⑤ 榑崎（ならさき）古墳群

犬上郡多賀町大字榑崎地先

◆調査主体・機関：多賀町教育委員会

平安
鎌倉



◆19. 墓 37-6 土師器皿出土状況

1. 全体の概要—わかったこと

榑崎古墳群は、古墳時代のお墓が中心ですが、一部に鎌倉時代の墓地がみつかっています。なかには、木質が付着した鉄釘が出土していることから木棺に遺体が入っていたと考えられます。また、輸入銭貨がみつかっているお墓もありました。



◆20. 木棺墓 SK1



◆21. 木棺墓

お皿の数は？

平安
鎌倉

⑥ 木曾（きそ）遺跡

犬上郡多賀町大字中川原地先

◆調査主体：滋賀県教育委員会

調査機関：財団法人滋賀県文化財保護協会

1. 調査の契機—調査したわけ

田んぼの区画整理（ほ場整備）および河川改修工事に先立ち発掘調査が行われました。

2. 全体の概要—わかったこと

木曾遺跡は、古墳時代から平安時代を中心とした集落跡ですが、調査地点によっては鎌倉時代のお墓がみつかっています。

多賀最大の中世墓地

平安
鎌倉

室町

⑦敏満寺（びんまんじ）遺跡石仏谷墓跡 犬上郡多賀町大字敏満寺地先

◆調査主体・機関：多賀町教育委員会



◆22. 調査前の状況



◆23. A区全景

1. 調査の契機—調査したわけ

遺跡を保存・整備するための基礎的な情報を得るために発掘調査を実施しました。

2. 全体の概要—わかったこと

敏満寺遺跡は、現在の名神高速道多賀サービスエリアがある丘陵地にある中世を中心とした時期の寺院跡です。また、この寺院には中世末（戦国時代）に城館が作られ、それは上り線のサービスエリア内に保存されています。

石仏谷墓跡は、この中世寺院である敏満寺に付属していた墓地と考えられています。発掘調査の結果、平安時代末から室町時代末まで長い間使われた墓地であることが分かりました。現在は姿を見ることができませんが、墓地の周辺に平坦な場所が確認できることから、お堂のような建物が隣接していたことが想定されます。

現在は史跡整備が進められており、近い将来に見学することができるようになります。



◆24. 石仏墓跡で見つかった土器や石仏・石塔

3. どんなお墓？

調査の結果、お墓の跡とみられるところからは、蔵骨器（骨を入れる壺など）を埋納するものや、一石五輪塔、石仏、組合せ五輪塔のような石造物を持つものになど、時期幅、バリエーションが多いのが特徴となっています。



◆25. 大蛇ヶ淵 大瀧神社のすぐ脇になります。多賀参詣曼荼羅にも描かれており、ここで犬上氏の祖である稲別依王と愛犬小石丸が大蛇退治をしました。



◆26. 大瀧神社 稲別依王を祀っている神社で、愛犬小石丸の忠犬ぶりにあやかり、ペットと飼い主の護り神として売り出し中です。



多賀のみどころ



◆27. 胡宮神社 社務所庭園は国指定の名勝です。紅葉のシーズンも意外に人が少なく穴場です。多賀サービスエリアの駐車場から歩いてアクセスできます。



◆28. 多賀大社 説明するまでもなく、年間160万人が参拝する霊験あらたかな滋賀県を代表する神社です。奥書院庭園は国指定の名勝です。



◆29. 杉坂峠の神木杉 多賀の神様が最初に降り立った処とされています。現在でも、多賀大社の万灯会の際には、この御神木の元で淨火がきり出され、大社に運ばれます。



◆30. 多賀サービスエリア 名神高速道路多賀サービスエリアはちょうど敏満寺遺跡と重なります。上り線の彦根側にある「ぶらざ多賀の湖」は敏満寺城地点で、現在も土塁が残されており見学することができます。食事のついでに寄ってみては。



◆31. あけぼのパーク多賀 図書館・博物館・文化財センターがはいた複合施設です。中でも多賀町立博物館は、施設の名称の由来にもなった、アケボノゾウ（180万年前）の全身復元骨格が展示されています。

【写真提供】

1～9、11～24 多賀町教育委員会

【参考文献】

- ①多賀町史編纂委員会編 1991 『多賀町史 下巻』
- ②多賀町史編纂委員会編 1995 『多賀町史 上巻』
- ③滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1999 『木曾遺跡Ⅲ』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 26-1
- ④滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2000 『木曾遺跡』赤田川単独河川改良工事に伴う発掘調査報告書
- ⑤多賀町教育委員会 2003 『檜崎古墳群－団体堂ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集
- ⑥多賀町教育委員会編 2003 『敏満寺の謎を解く』
- ⑦多賀町教育委員会 2004 『土田遺跡－第4次調査・第5次調査』多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第14集
- ⑧多賀町教育委員会 2005 『敏満寺遺跡石仏谷墓跡』多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集
- ⑨多賀町教育委員会 2008 『大岡高塚古墳』多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集
- ⑩多賀町教育委員会 2014 『大谷遺跡』多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第21集
- ⑪滋賀県立安土城考古博物館 2006 『扇状地の考古学－愛知・犬上の古代文化』第31回企画展展示図録
- ⑫滋賀県立安土城考古博物館 2019 『近江の考古学黎明期－近江風土記の丘50周年キックオフ企画－』第59回企画展示展示図録

滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅰ多賀町編
「お墓からみた多賀の歴史」

2019年（令和元年）7月19日 発行
編集・発行 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL 077-548-9780 / FAX 077-543-1525

会期
滋賀県埋蔵文化財センター
2019年7月19日～9月1日
多賀町立博物館

2019年10月1日～10月19日
主催：公益財団法人滋賀県文化財保護協会
後援：滋賀県教育委員会・多賀町教育委員会

この冊子は文化庁の「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」補助金により作成しました。

